



Title	黴菌培養に魔法瓶の應用
Author(s)	西田, 藤次
Citation	札幌博物学会会報, 5(1), 45-47
Issue Date	1913-07-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/60872
Type	article
File Information	Vol.5No.1_005.pdf



[Instructions for use](#)

微生物培養に魔法瓶の應用

農學士 西田 藤次

THERMOS AS A THERMOSTAT IN TEST-TUBE CULTURE.

By

TOJI NISHIDA, *Nogakushi.*

魔法瓶即ち Thermos は 1892 年英國のデワール (Dewar) 氏が液體空氣の保存器として發明せられたる Dewar's flask を食物の保温冷蔵に應用したるものにて二重の硝子瓶より成り真空と反射面とを應用して熱の傳導を防ぎたるものにして諸處にて製作せらるゝも獨逸伯林イゾラ (Isola) 會社製のものは保冷二日保熱二十四時間に堪ゆと稱せり其の形狀種々あり。是まで食物保存の外に植物呼吸熱の觀測に即ちピアース (Pierce) 氏により Respiration Calorimeter として應用せられ、大野理學博士は植物學雜誌第二百八十四號にマイクローム截片を作る爲めパラフィン封入の際之を使用し甚だ便利なるを認めたりと報せられたり、余は今回同會社製廣口食物罎半リートル入(百四十三號)若くは一リートル入(百五十三號)を以て試験管培養に定温器 Thermostat 代用として最も輕便なるものあるを認めたり。

元來微生物及び細菌の培養には一定時間一定温度中に放置して其の發育狀態を觀察するを必要とし之れが爲には定温器を用ひ來れるが、定温器は病院若くは研究所等に於ては充分設備し得らるべきも常に其の温度を加減し且つ夜中と雖も點火し置くの要あれば相當設備ある場所の外は危險にして隨處に之が培養を行ふことは蓋し難事に屬したりしが、少數の試験管培養に魔法瓶を應用するは甚だ簡便な

るものあり、即ち綿栓したる試験管内に細菌を移植し護謨帽を以て試験管口を覆ひ之を一定温度の湯を入れたる魔法瓶中に置くときは一定時間一定温度内に繁殖培養することを得、數時間に亘り温度の下降することあれば單に其の湯を入替ゆることによりて容易に保温し得られ其の繁殖狀況を觀察し得べし、故に只一個の魔法瓶は最も簡便に且つ最も安全に徹菌取扱者に取りて最も必要なる定温器として役立ち得らるべきなり。前記百四十三號瓶には普通試験管六本を五百十三號瓶には十二本を容れ得べく、何れの場處にても容易に且つ安全に備付られ得べければ其設備充分ならざる農事試験場又學校等に於ても手軽に培養し得べく、或は醫師の診斷室に於ても容易に且迅速に患者の有菌者なるや否やを確實に鑑定し得べく、又檢疫者にして常に之を携行せば(携行にも甚だ便利なり)遠隔の土地にありては既に其の歸着に先ちて細菌の發育を認識し直ちに警戒消毒するを得べく傳染病の警戒上に其の時間を短縮し衛生上に多大の効果を顯すことを得べく、其の他陸軍衛生材料として獸醫材料として至便なることを發見すべきなり、研究室に於ても温度を異にし數種の培養を欲する場合にも數多の定温器を備付るの要なく簡易に短時日に成績を得べきなり。

魔法瓶中の温度が如何に底下するかは外界の空氣及び内部の温度の高低、容器の大小、構造、時の長短、内藏せる物量の多少等により差異ある事勿論なれども大正元年十二月五日より二十日に至る間に熊本に於て三種の魔法瓶を以て檢定したる成績を掲ぐれば次の如し

最初注加したる湯の温度	経過したる時間	経過時間後の湯の温度		
		第二百十八號合八勺入瓶	第四百十三號廣口瓶	第五百十三號廣口瓶
30° C	1時間	29.2	29.2	28.5
”	2	29.4	28.7	27.7
”	3	28.8	28.5	26.8
”	4	28.0	27.8	26.0
”	5	27.7	27.2	25.3
”	6	27.0	26.8	24.7

最初注加 したる湯 の温度	経過したる 時間	過過時間後の湯の温度		
		第二 百合 十八 号 瓶	第百四十三號 廣口瓶	第百五十三號 廣口瓶
30° C	7 時間	26.7	26.5	24.2
”	8	26.5	26.3	23.2
”	12	23.3	23.4	19.8
”	16	21.5	21.3	18.4
”	24	21.0	20.8	16.9
50	6	40.0	—	—
”	24	30.0	—	—
60	6	52.0	—	—
”	10	50.0	—	—
”	28	33.0	—	—
”	48	24.0	—	—
80	24	40.0	—	—

但百四十三號瓶には湯を全量百五十三號瓶には半量を注加し置きたるものなり。